

# 「GENESIS 松島計画」へ意見を出そう

電源開発株式会社(J-POWER)が9月28日から10月29日の間、「GENESIS 松島計画段階環境配慮書」への意見募集を行っています。この計画は、以下に説明する通り、気候変動の観点から大変大きな問題があります。

## なぜ GENESIS 松島計画が重大なの？

### 気候危機を無視した石炭火力事業だから

気候危機が深刻さを増しており、気温上昇を 1.5℃以内に抑制するために 2050 年カーボンニュートラルを実現することが求められています。そのためには、先進国である日本は、石炭火力発電は 2030 年までに廃止していくこと（フェーズアウト）することが必要です。

ところがこの GENESIS 松島計画は、稼働から 40 年が経過する旧式で低効率な石炭火力発電所に、石炭をガス化する設備を付け加え、効率をわずかながら改善し、今後も使い続けるという計画です。

石炭火力発電は、火力発電所のなかで最も CO2 を排出するエネルギー源です。その量は天然ガスの 2 倍です。そして、日本の発電部門における最大の温室効果ガス源です。

カーボンニュートラルへの対応として、アンモニア、水素等を混ぜて発電する方針ですが、未だ確立した技術ではありません。

また、ガス化設備を付け加えても、旧式の発電設備の大半が残ることになり、大幅な排出削減にはつながりません。

水素は再生可能エネルギーからも作ることができますが、現状ではほぼ化石燃料から製造されています。排出される CO2 を再利用したり地中に埋める技術も考えられていますが、それらの技術は実用化されていません。不確実な技術に期待し、温室効果ガスの排出が多い石炭火力を使い続けることは、許されることではありません。

事業者の資料には、「カーボンニュートラルへの挑戦」とありますが、実態は、石炭火力の延命策であり、化石燃料を継続して利用する延長線上にある計画なのです。

今、必要なのは、1.5℃に気温上昇を抑制するための「2030 年の石炭火力全廃」です。気候危機を回避するため、問題点を共有し、広く意見を提出し、声をあげていくことが重要です。

## どんな計画なの？

### 石炭火力にガス化設備を追加でも脱炭素の足がかりはできていない

電源開発株式会社（J-Power）による、既存の松島火力発電所に石炭のガス化設備を付加する計画です。

現在、松島火力発電所では、1981 年 1 月に運転開始した 1 号機（50 万 kW）と同年 6 月に運転を開始した 2 号機（50 万 kW）が運転中。いずれも超臨界圧（SC）という効率が低く、旧式の石炭火力発電所です。

本計画では、この 2 号機に石炭のガス化発電設備を付け加え、石炭由来の水素・アンモニア発電等での利用、炭素回収・利用・貯留（CCUS）を掲げ、旧式石炭火力発電所を延命させようとしています。

「大崎クールジェン」と呼ばれる石炭ガス化設備の実証プロジェクトで用いられたのと同様のガスタービン等を敷地内に新設し、石炭をガス化して発電します（約 10 万 kW）。さらに、タービンからの排ガスを排熱回収ボイラーの熱源として利用し、約 6 万 kW の発電出力を得るといいます。そして、石炭ボイラーでの石炭燃焼からの発電出力を 40 万 kW に減じ、ガス化設備からの排熱回収ボイラーを、2 号機のボイラー熱に加え、

全体の発電能力は現状と同じ、50 万 kW 級とする予定です。

工事開始は 2024 年度、運転開始は 2026 年度です。その間も、低効率な 2 号機を運転し、温室効果ガス、大気汚染物質を排出し続けます。

事業の名称	GENESIS 松島計画
事業実施想定区域の所在地	長崎県西海市大瀬戸町松島内郷 2573-3
原動力の種類	ガスタービン及び汽力（コンバインドサイクル方式）
出力	現状：2 号機 50 万 kW 将来：2 号機 50 万 kW 級
燃料	石炭
工事開始時期	2024 年（予定）
運転開始時期	2026 年（予定）

出所：J Power「GENESIS 松島計画 計画段階環境配慮書のあらまし」

## この計画の問題点

1

### 既存の非効率な石炭火力発電設備の延命につながる

事業者は将来的に水素発電や CO2 の分離・回収施設も導入するとしていますが、実現可能性は見通せていません。にもかかわらず本計画を進めれば、この発電所は今後も運転をし続けることとなります。さらに、廃止が検討される他の発電所でも同様の事業が進められ、日本の脱炭素を後退させてしまう恐れがあります。

2

### CO2 排出量に関するデータが無い

事業者は新設備の追加で発電効率が上がり、発電電力量あたりの CO2 排出量が低減されるとしているが、データが示されておらず、定量的に検証できません。

3

### 現状の大気汚染物質の排出を「既得権」として捉えている

松島火力は旧式のため、他の石炭火力発電所と比べても大気汚染物質の排出濃度が高く、環境対策が不十分です。これは石炭火力特有の問題で、現状より改善するというのは、汚染物質を排出することを前提にしていると言わざるを得ません。

4

### 再エネの導入など、複数案の検討をしていない

脱炭素社会の構築において石炭火力が問題視されている状況にありながら、計画の策定において、石炭火力以外の案が検討されていません。本来なら、事業を実施しない案、再生可能エネルギーを実施する案なども含めて、複数案を検討しなければならないはずで

## 意見を出そう

今回出す意見は、環境アセスメントの一番早い段階で事業者が作成する文書に対してです。早い段階から意見を提出することで、石炭火力発電所を延命させようとする事業者と、この事業を推進している自治体に対し、問題を提起や計画に対する意思を示すことができます。事業を問題視していることを示すために、1 通でも多くの意見を出すことが、この事業の進行を止める、あるいは見直させることにつながります。

### 意見書の出し方

意見は事業者宛てに直接郵送するか、こちらで準備した送付代行フォームに記入することで提出することができます。所定のフォームに記入して期日までに提出する必要がありますのでご注意ください。

### 郵送の場合

① J-POWER 指定の「GENESIS 松島計画 計画段階環境配慮書ご意見記入用紙 (PDF)」を以下からダウンロードして印刷し、記入。



[https://www.jpowers.co.jp/sustainability/environment/assessment/pdf/matsushima/2109matsushima\\_opinion.pdf](https://www.jpowers.co.jp/sustainability/environment/assessment/pdf/matsushima/2109matsushima_opinion.pdf)

② 以下へ郵送

〒104-8165 東京都中央区銀座 6-15-1  
電源開発株式会社 立地・環境部 環境室

提出締め切り

**2021 年 10 月 29 日 (金)**

**当日消印有効**

### オンラインフォームに記入

以下の Google フォームに記入の上、送信してください。気候ネットワークで所定の用紙に記入して郵送します。



[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfTjmcQjN8-nsmtCE6R7myOfok7RC61CafDVByV-6axFKe3cA/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfTjmcQjN8-nsmtCE6R7myOfok7RC61CafDVByV-6axFKe3cA/viewform?usp=sf_link)

記入締め切り

**2021 年 10 月 27 日 (水)**

(作業の関係上、フォームへの入力の締切を事業者の郵送期日より早く設定しておりますのでご注意ください。)

発行：NPO 法人気候ネットワーク

〒102-0082 東京都千代田区一番町 9-7 一番町村上ビル 6F

TEL. 03-3263-9210 FAX. 03-3263-9463

E-mail. [tokyo@kikonet.org](mailto:tokyo@kikonet.org)